

講義名	オ)ファイナンシャル・プランニング				
担当教員	小笠原 宏				
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 4時限	授業形態	講義		
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
個人のキャリア形成、人生設計、生活設計においても、収入と支出のバランスだけでなく、長期的な目標をもった資産形成を、豊かな中身の濃い人生を送るためには有効である。おカネの心配ほど、辛く切ないものはない。社会保障の制度が保証するのは、最低限の部分であり、決して不満を感じないレベルのものではない。そういった現実を自らの長期的な努力をもって補うことが重要である。現在の生活レベルや満足度を高め維持しつつ、将来にも備えるという競合しかねない課題にどう立ち向かっていくかを現実的に、おカネに関する知識を総合的に習得し、活用実践していくことを目指す。					
到達目標					
具体的かつ実現可能な資産形成の仕方、キャリアプラン、人生設計と合わせて考えられるようになる。					
提出課題					
メールによる毎回講義の要点、学んだ事、考えたことなどを報告課題とする。これは加点評価ポイントとして活用していく予定。講義内で詳説する。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
有効かつ生産的な質問や疑問、全体と共有するのが良いと思しきコメントなどは、講義内で補足解説していく。個別レベルで対応すべきものは、個別にメールなどで返信する。					
評価の基準					
毎回の講義における講義内容要約及び自らの学習点などをメールにて報告（加点）。出欠もメールにて集計する。ビデオ録画講義を配信する(規定公開)なので、適宜復習と合わせて活用して欲しい。コロナ禍対策として、基本的に最終レポートを課す予定。状況好転により試験実施の場合は50%の配点。上記各回課題が25%、出席点25%（15回全出席、オンデマンド講義と併用可）で総合的に評価予定。講義内でも説明する。					
履修にあたっての注意・助言他					
不斬から日経新聞、一般新聞のビジネス関連、金融関連の記事に目を通して欲しい。最低限、大きな字のタイトル部分だけでもいいので、巷間何が話題になっているのか、ホットイシューになっているのかに注意を払って欲しい。講義内で質問受け付けるし、積極的に取り上げる予定でもある。新しい不明な用語などは、今はネットで玉石混濁の情報があふれがえているのでそれらを積極的に見てみる習慣を付けて欲しい。自己学習の習慣は非常に重要である。続けていくことに重いて何事に於いても大きな差がついてしまう行動、通関であることを理解すべきである。					

教科書				
.特定のものを使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
不斬から日経新聞、一般新聞のビジネス関連、金融関連の記事に目を通して欲しい。最低限、大きな字のタイトル部分だけでもいいので、巷間何が話題になっているのか、ホットイシューになっているのかに注意を払って欲しい。講義内で質問受け付けるし、積極的に取り上げる予定でもある。				
授業計画				
講義で順書に取り上げるテーマとカテゴリーは以下の通り。 (1)講義概要と進め方、ファイナンシャル・プランニングとは何か。資産形成の必要性と手法 (2)金融機関、金融市場とはどんなものか。 (3)証券会社、証券市場などどんなものか。 (4)その他金融機関に何があるか。（リース、信託、保険など） (5)ファイナンス分野における統計、数字の活用法 (6)分散投資(ポートフォリオ理論、ポートフォリオインシュランスなど)概説 (6)金融新商品、派生商品などの解説。高度複雑な複合金融商品の活用法など (7)F X取引や暗号資産(仮想通貨) など概説 (8)その他受講者の提案項目				
各項目の説明に要する講義回数を基本的に1～3回を想定で合計15回。講義の進捗や受講者の理解度、興味によって変更ありうる。ビデオ録画を限定公開する予定なので講義内容を復習をして新たな課題があれば提案して欲しい。それらを取り入れながら講義内容も調整しながら進める予定。予習課題を出すことも想定しているが、その場合は新聞朝刊をざっと読む程度を考えている。（30分～1時間、個人差あり。）				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
○	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク		
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク		
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
ふだんから投資や資産形成を人生設計と合わせて考えるようになって欲しい。就職先の選択も人生設計、キャリアプラン構築との関連性も高い。収入と支出のバランスを個人で考えるだけでなく、家族、家計という単位で考えることが求められることも理解して欲しい。年金や保険など、「カネのむだ」とか「機能していない」など、不安があるだけのマスコミ報道に惑わされていないかどうか考えて欲しい。身近なことだけでなく長い人生の長期的な見方や見通しというものが必要になってくることを認識してほしい。疑問におもったり、不明な用語は、今はネットに用語辞典的なものがいっぱいあるので、それらを自ら調べて学ぶんでほしい。正しい、間違った知識の宝庫であり、ゴミの山でもある。識別判断する能力を身につけることが大事である。書段(毎日でも)から、日経新聞、一般紙にざっと目を通す習慣をつけて欲しい(予習)。一回30分程度の新聞略読。復習は、毎回講義の振り返りとしてのノート整理が望ましい。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
個人として、将来の生活安定のための資産形成の進め方を学習し、総合的な長期計画などを具体的にたてるための手法や考え方を学ぶ。多種多様な金融商品や多様な金融機関とのつきあい方や活用の仕方が考えられる。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
個人ブログや、youtubeを通じて、講義内容の限定公開（音声、板書、講義録画、資料ファイル類）する予定なので、復習に活用するのと、問題意識の拡張に役立てて欲しい。その上で質問やコメントなどメールなどにてどんどん発信して欲しい。内容によっては、講義内あるいはブログにて返信対応ほか行っていく。				
実務経験の有無及び活用				
外銀勤務、シンクタンク勤務経験あり。他大学への出講経験もあり。留学経験（米国）あり。実際に資産運用（株式、不動産その他）を行っているので経験豊富。机上の空論をならべたてて知識を開帳するような講義や、経験談だけをかけるような講義をするつもりはない。最終選択を行うのは投資家本人であるという原則が大事である。				
備考				